

おいしいメロン届けます

7月23日、つがるブランド認定メロンの初出荷式が、ごしよつがる農協木造総合支店で行われ、福島市長、農協、生産者ら約60人が出席しました。

この日出荷されたのは、名古屋、大阪での販売促進イベントで用いられる市独自の栽培・出荷基準を満たした糖度15度以上のタカミメロン600ケース。福島市長が「天候不順で収穫の遅れが心配されましたが、平年並みに回復し、味、外観ともに良質なメロンに仕上がりました。継続的な販売戦略とさらなる情報発信を推進していきます」とあいさつを述べました。出荷式では、菰槌保育園の園児がトラックのドライバーに花束を贈呈し、テープカットの後、関係者一同でトラックを見送りました。



つがるブランドメロンの初出荷を祝ってテープカット



全国大会に出場する工藤君

車力柔道少年団の工藤君が全国大会へ

全国小学生学年別柔道大会予選会（6月23日、平内町）で工藤大和君（牛潟小6年）が男子小学6年生50キロ級で優勝を果たし、8月に広島市で行われる全国大会への出場を福島市長へ報告しました。

工藤君が所属する車力柔道少年団の坂本豪世監督は、「工藤君の良いところは、体にバネがあることと、試合になると普段は見られない強い精神力を発揮できること」と話し、工藤君は「県大会では、やっと優勝できてうれしかった。全国大会では、最後まであきらめず、自分の力を出せるようにがんばります」と抱負を語りました。

松橋サトさん100歳長寿おめでとう

松橋サトさん（富范町）が6月20日、めでたく満100歳の誕生日を迎え、23日、長寿を祝いました。

松橋さんは、大正2年生まれ。約40年前に死別した夫の竹五郎さんと農業を営み、子2人、孫7人、ひ孫15人に恵まれ、現在は、自宅で家族とともに暮らしています。

この日は、自宅を訪れた境福祉部長が顕彰状と花束を手渡すと、松橋さんは嬉しそうに受け取りました。同居している長男の妻の松橋トキエさんによると「近所の人と話をするのが好きで昨年までは畑仕事もしていた。自分のことは自分でして、好き嫌いなく何でも食べるのが長生きの秘訣なのは」と話していました。



家族に囲まれ祝福される松橋サトさん（中央）



ペットボトルを使った救助方法を学ぶ児童たち

水辺の事故から身を守ろう

子どもたちに水辺の事故から身を守る知識や技術を学んでもらおうと7月17日、牛潟小学校（木村洋志校長）で全校児童を対象にライフセービング教室が行われました。

教室では、つがるライフセービングクラブ（岡元克美代表）の斎藤俊史さんが講師を務め、力を使わずに水中で浮かぶ方法について学んだ後、ペットボトルを用いた救助方法を教わりました。斎藤さんは「水を少し入れたペットボトルを溺れている人をめがけて投げ、ペットボトルの上にあごを置いて、落ち着くように声を掛ける」と説明。子どもたちは助ける役、助けられる役になって実際に声を掛けながら練習しました。笹田大登君（6年）は「人を助ける時は大きな声を掛けることが大切だとわかった」と話していました。



箱田消防団長が総務大臣表彰

つがる市消防団の箱田鐵雄団長が消防の発展に寄与した方に贈られる「平成25年度消防功労者総務大臣表彰」を受賞しました。箱田団長は昭和57年入団、平成8年に旧柏消防団長に就任。つがる市発足とともに初代団長に就任し、地域消防のリーダーとして団員の資質向上を図りながら消防団組織の統合に貢献してきました。近年では消防団協力事業所表示制度導入の推進など地域防災体制の充実に多大な功績を果たしました。

7月5日、都道府県会館（東京都）で行われた授賞式では8人の受賞者を代表して「本日の受賞を機に思いを新たに今後とも地域社会の安全確保のため、一層努力していきます」と謝辞を述べました。



柴山昌彦総務副大臣(左)に謝辞を述べる箱田団長(右)



誓いの言葉を述べる高橋君(右)と藤田君

犯罪や非行のない明るい社会を

7月4日、犯罪や非行のない明るい地域社会を築くことを目的に「第63回社会を明るくする運動」市民集会在松の館で開催され、市民ら約400人が参加しました。

集会では、向陽小学校5年生の高橋天虎君と藤田伊織君が「友達を大切に、困っている人を見つけたら声を掛けるようにします」と誓いの言葉を発表。社会を明るくする運動作文コンクールで青森県知事賞を受賞した松橋和奏さん（車力中1年）が作文「前向きな気持ちで」を、あすなろ理事長賞を受賞した藤田珠梨さん（木造中1年）が「正直な自分でいたい」をそれぞれ発表しました。最後によさこい知求群会が演舞を披露し、集会を盛り上げました。

平和への誓い新たに

「つがる市戦没者追悼・平和祈念式」が7月11日、松の館で開催され、戦没者1,325人の冥福を祈りました。

式典には約200人が参列し、戦没者の御霊に黙とうをさげた後、福島市長が「恒久平和への誓いを新たにいたしますとともに、つがる市の限りのない発展のため、市民の皆様と力を合わせて取り組みます」とあいさつ。市遺族会の工藤光則会長が「戦争のはかなさを次の世代に伝えていくことが私たちの使命であり、私たち遺族がこれまで以上に戦争体験を発信して参ります」と追悼の言葉を述べました。

参列者は標柱が飾られた祭壇に白菊を献花し、また「蕾の会」による追悼合唱も行われ、戦没者に思いをはせていました。



祭壇に白菊を献花する参列者



安全を祈願するチェスボロー倶楽部の秋田谷建幸会長

出来島海岸、マグアビーチで海開き

7月13日、出来島海水浴場とマグアビーチで海開き式が行われ、8月18日までの遊泳期間の無事故を祈願しました。

出来島海水浴場では、出来島子供会育成会などが砂浜の清掃を行い、海開き式後、市消防署員が心肺蘇生法の講習会を開き、参加者に人工呼吸の方法や自動体外式除細動器（AED）の使い方を指導しました。

マグアビーチでも海開き式の前に海岸清掃が行われ、地元住民や米陸軍車力通信所関係者らが環境美化に貢献しました。同ビーチでは子どもの安全のためにウエットスーツとライフジャケットを無料で貸し出ししています。